

令和3年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	名古屋大学	タイプ	B①
事 業 名	アジア諸国における炭素ゼロナイゼーションのための人材育成		
海外の相手大学	上海交通大学、韓国海洋大学校、チュラロンコン大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、アジアの炭素ゼロナイゼーションをリードする人材育成を、文理融合的なアプローチや堅実で広範な大学間ネットワークにより達成しようとしており、事業の目的が明確である。また、養成する人物像が明確に説明されており、理想と実現可能性とのバランスが取れている。これはアジア諸国のみならず世界的にも重要な課題の解決に向けて、大学が取り組むべき分野についての社会的要請に応えるものとなっている。

大学間連携や交流に関しても、交流相手大学だけでなく ASEAN の多くの大学との連携が計画されており、事業の発展が期待できる。いずれの交流相手大学も、日本法教育研究センターの活動を含む、これまでの名古屋大学との連携で実績を有している。そしてそこに、名古屋大学の強みであるジョイントディグリー制度が組み込まれた事業となっている。このように、名古屋大学がこれまで培ってきた国際的ネットワークや英語による講義提供体制を活かした事業内容となっている。交流学生数に関しても、オンラインのみの参加が多いものの計画人数は高く見積もられており、コロナ禍であっても、実渡航による交流に向けた裾野を広げる計画となっている。

一方で、事業内容については、カーボンフリー／ニュートラルの実現に向けた工学系・経済学系・社会学系分野の融合にむけた領域間の役割分担や協働のポイントについての説明が具体性に欠ける。クラスター（領域）間の協働にもとづく長期研究プログラムについても、一般的な説明に終始している印象を受ける。とりわけ、経済学部・経済学研究科や国際開発研究科がどのような形で申請プログラムに関わるのか、関連講義の提供だけなのか、プログラム参加者の派遣・受入を行うのか、派遣・受入を行う場合に、どのような形で単位互換や成績管理を行うのかといった点を明確にすることが必要であり、更なる検討が望まれる。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。